



大好き かたびら

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/katabira>

令和4年11月30日
横浜市立帷子小学校
学校だよりNo.8 12月号
保土ヶ谷区川辺町65-1
Tel.045-335-5896

けいけん まな い ちから
経験し、学び、生かしていく力を

こうちょう さいとう ようじ
校長 齋藤 容二

はつ ちゅうとうちいき かいさい
初の中東地域での開催となる、サッカーワールドカップカタール大会が始まりました。国の代表選手に
あつ しあい れんじつづつ にほんだいひょう いま なか きょうこく げんざい
よる熱い試合が連日続いています。日本代表は今ではアジアの中ではサッカー強国となっていますが、現在
おお ひと ちから どりよく つた
のようになるまでには、多くの人の力、努力があったことが伝わってきます。

こんかいにほん しょせん たいせん にほん かい せんせい い やく
今回日本が初戦で対戦したドイツは、日本サッカー界にとっては「先生」と言われています。約60
ねんまえ どうきょう まえ だいひょう きょうか しょうへい じん こ
年前、東京オリンピックを前に、代表チーム強化のためにコーチとして招聘したのがドイツ人の故デッ
トマル・クラマー氏でした。クラマー氏は情熱をもって指導にあたるとともに、指導者を養成するために
かんが かつ でんたつ せいど せいび と
考え方の伝達や制度の整備を唱えたのです。

にほん やく ねんまえ どうじ きょうかい かいちょうかわぶち し し おし
日本にプロサッカーリーグができたのは約30年前です。当時の協会会長川淵氏はクラマー氏の教えを
う もとだいひょうせんしゅ そうせつ てほん うんえい い
受けた元代表選手であり、リーグ創設にあたっては、手本にしたのはドイツのチーム運営であったと言わ
れています。わか ころ けいけん まな わす つぎ せだい おお りそう かか おお
若い頃に経験し、学んだことを忘れず、次の世代へつなぐため、さらに大きな理想を掲げ多く
ひと ちから あ とく にほん いま はってん
の人と力を合わせて取り組んでいったことが、日本サッカーの今の発展へとつながってきたのでしょう。

ほんこう こ せいかつ か そうごうてき がくしゅう じかん とりくみ なか たいけん ちいき かつ はなし
これまで本校の子どもたちは、生活科や総合的な学習の時間の取組の中で体験したり地域の方の話を
き かつどう こうえんせいそう ちいき かつ いっしょ かつどう じっさい たいけん
聞いたり、たてわり活動での公園清掃で地域の方と一緒に活動したりしてきました。実際に体験すること
ふだん せいかつ きょうしつ なか がくしゅう けいけん きづ まな
で普段の生活、教室の中での学習では経験できないこと、気付かないことをたくさん学んできています。
きょうしつ なか じょうほう し じぶん たいけん かん きづ まな え
教室の中で情報を知るだけでなく、自分が体験することで感じ、気付きや学びが得られることはたくさん
あるのです。

いま こ しゅうまつ おこな む ねっしん じゅんび れんしゅう おこな
今、子どもたちは週末に行われるかかもコンサートへ向けて、熱心に準備、練習を行っています。

3年ぶりの体育館開催であり以前の形と異なりますが、子ども一人ひとりが目標をもち、友達と気持ちを合わせながら歌や合奏に取り組む姿から、多くの子どもたちがコンサートを楽しみにしていることが伝わってきます。そして練習段階においても緊張感をもち、よりよい表現ができるよう集中して取り組む姿には、心を揺さぶられるものがあります。練習で歌い終わった後に「気持ちよかった」と話した子どももいました。当日は、見ている人、聴いている人たちと一緒に、心地よい音楽を創っていただけることを願っています。

これからも学校は、友達や地域の方、専門家など様々な人と様々な活動を行うことができる場所、環境でありたいと思います。経験したことを学びへとつなげ、子どもたちの意欲を刺激し、子ども自身がよりよい姿を目指していけるような取組ができる学校でありたいと思っています。子どもたちにとって将来、小学校時代の経験が活かされるかどうかはわかりませんが、様々な活動、経験、学びが子どもたちの可能性を広げることにつながることを願っています。

以前もお伝えしました、イオン開店に伴い開通したT字路についてですが、イオン駐車場に入るために水道道から左折、又は右折して入ってくる車が多くあります。駐車場から出てきて水道道に入る車は左折だけでなく、右折していく車もあります。スクールゾーンとなっていますが信号機が無く、学校・PTA校外指導委員会ともに、とても危険な状況であると捉えています。現在は交通誘導員が1名立った中で児童の登下校が行われていますが、今後とも警察・イオン等関係機関と情報を共有し、児童の安全な登下校ができるように改善が図られるよう取り組んでいきたいと考えています。保護者・地域の皆様にも関心をもっていただき、子どもたちの安全安心のためにお力をいただければ幸いです。